
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 5 No. 9

1955年11月

倉敷昆虫同好会

山手村のハッチョウトンボ

安江安宣

さきほど山陽新聞を介して倉敷市北方に隣接する吉備郡山手村にある中国陶器株式会社からハッチョウトンボの標本がとどげられた。このトンボの岡山県における最近の記録をみると、近藤光宏氏(1951)が山手村からほど遠くない吉備郡総社市八代において同年8月4日に採集し(本誌第1巻第8号)、ついで安東端夫氏(1952)が本県東北部英田郡の兵庫保境となっている日名倉山(標高1047m)を本種の産地として記している(本誌第2巻第2号)。また小川大右氏(1953)は本県西南部の浅口郡遠照山(標高406m)の山麓で採集しているが(本誌第3巻第6号)岡山県におけるこのトンボの棲息地は甚だ局在性をおびているといえよう。

筆者もさる8月5日の午後から、急に思立って倉敷駅前から総社行バスにとびのつた。菅生小学校をすぎた東北方の山手村にぬける峠の頂上にある氷別部落(標高55m)にてまず、通稱セツ池のあたりで降りて溜池附近の理地を手あたり次第にまわってみたがみあたらず、峠をこえて山手村側にくだつてセツ池の最北の大池にもシオカラトンボとハラビロトンボだけしかいない。村の女の子が数人カラス貝の大きなのを風呂敷に一杯とっていた。正面に国分寺の見事な五重塔をのぞみながら250mほど県道を北進すれば山手村平山部落のはずれにかゝるが、右手にそびえる高島居山(標高160m)の山頂ちかくにある大沼池から源を巻いている小川を渡る橋のてまえを右に折れて、一向幅のたんたんとした山道を谷にそって東南の方向に遡行すること約1料、ちかごろ氣持の民芸趣味豊かな山手焼をやっている中国陶器の工場につく。

社長さんに案内されてみると、くだんのハッチョウトンボはこの敷地内北側のわずか2,30坪ばかりの湿地(標高50m)に発生しているが、

その数はあまり多くないので乱獲されると心配である。いずれにしても此處は岡山、倉敷からもっとも寺近かなハツチヨウトンボの産地であろう。なお現地は一寸わかりにくいところなので地理調査所2万5千分の地形図「倉敷」図幅をズされば用意してゆくと思ふ。

西大寺近隣甲虫

赤枝一弘

- *Megopis sinica* White ウスバカミキリ
- イッパ前報もホヱラその他でニ頭採集した事があり又西大寺高にもニ頭標本があるので稀な種ではない。最近の記録では1954年8月3日燈火飛来がある。
- *Xystrocera globosa* Olivier アオスジカミキリ
1955年6月14日西大寺市金岡の燈火に飛来したのを友人が入手した。
- *Pyrestes haematicus* Pascoe クスベニカミキリ
1955年6月22日竜の口頂上に於て飛翔中を採った。
- *Galerita japonica* Bates ホソクビゴミムシ
1954年8月あまりさがした畝では無いが三頭採集出来たので少い種とは言えないが一応報告する。採集地芥子山
- *Cicindela gracilis* Pallas ホソハンミョウ
1954年6月27日蛸子山に於て交尾中のものを採集その後採れないので少い種であろう。

編集後記 今日安江先生のハツチヨウトンボの記録と赤枝氏の西大寺の甲虫の記録と2篇を載せました。新しい記録、採集記なんでも能くです。どしどしお断せ下さい。

すずむし 第5巻第9号 昭和30年11月20日印刷
昭和30年11月20日印刷

編集者 倉敷市住吉町 岡山大学農芸生物研究所
発行者

害虫部第二研究室内

倉敷昆虫同好会